

小学校教員による児童のリーダーシップの 捉え方に関する研究

A Study of Elementary School Teachers' Perceptions of Students' Leadership

武蔵 由佳
Yuka MUSASHI

【問題と目的】

児童生徒のリーダーやリーダーシップに関して、かつてのように自然発生的にでてくるリーダーはいなくなり、教員がリーダーシップをとれると見立てた児童であっても積極的にリーダーをやりたがらないなど、リーダー不在の問題(弓削・森部, 2015; 松山・長谷, 2022)が指摘されてきた。児童のリーダーシップについての調査(堺・藤原・伊賀上, 2011)でも、リーダーシップ能力が「高い」と回答した小学校教員は0%, 「どちらかという高い」は2.1%, 「どちらでもない」が22.0%, 「どちらかという低い」が52.1%, 「低い」が23.8%で、低いとする回答が75.9%と多かった。また、PM理論に基づいて児童のリーダーシップを自記式尺度により測定し、4類型に分類した調査(堺, 2000)によると、PM型が22.9%, Pm型が13.6%, pM型が12.3%, pm型が51.2%となっており、3年前の同調査と比較するとPM型が減少していたことが示されている。このように教師評定による測定においても、児童の自己評定による測定においても、子どもたちのリーダーシップ能力の低下が明らかにされている。

文部科学省(2022)は、小学校の児童会活動やクラブ活動は、高学年がリーダーシップやメンバーシップを実感できるように指導すること、また各活動の活性化や充実には、学級・ホームルーム活動における話し合い活動、係活動における協力や創意工夫、当番活動における役割交流などにおいて自発的、自治的な活動を助長するための指導や援助を適切に行うことが必要であることを指摘している。つまり、学級や学校での集団活動において、教員が児童のリーダーシップを育成することの必要性について提起されている。先の児童のリーダーシップ能力の低下に鑑みると、教員による児童のリーダーシップの育成はより丁寧に行う必要があるのではないかと考えられる。

一方で、近年ではリーダーシップの理論や研究は多岐にわたり、リーダーシップの捉え方も多様化している。成人を対象としたリーダーシップ理論や研究の概要を示すと、1940年代前半はリーダーの「特性」に焦点を当てた特性理論的アプローチ、1940年代後半から1960年代前半に、リーダーの「行動」に焦点を当てた行動理論的アプローチ、1960年代後半から1970年代前半は、リーダー行動に影響を及ぼす「環境」要因を視野

に入れた状況理論的アプローチへと発展してきた(石黒, 2012)。さらに, 1970年代後半から1980年代には, 社会的認知理論の影響下, リーダーとフォロワー双方の内的過程(認知)に関する研究が行われ始め, さらに, 硬直化した組織に変革をもたらす「変革的リーダーシップ」の研究も興る(石黒, 2012)。1990年代以降は, サーバントリーダーシップのような倫理的リーダーシップ, リーダーとフォロワーの相互影響過程を探索する共有型リーダーシップ, 自身の価値観を大切にしながら他者を導くオーセンティックリーダーシップなど様々なアプローチが見られる(淵上, 2009; Komives, Lucas, & McMahon, 2009)。このようにリーダーシップの捉え方が変化している中で, 小学校の学校現場において, 教員は児童のリーダーシップをどのように捉えているのだろうか。

教員による児童のリーダーシップに対する捉え方の研究はほとんどない。その中で, 児童のリーダーシップに関する研究の中で測定されている尺度項目を見ると, 倉本(1981)は文献(Bales, 1950; Carter, Haythorn, Shriver, & Lanzetta, 1951; Lippitt, Polansky, & Redl, 1952; Kirscht, Lodahl, & Haire, 1959; Clifford, & Cohn, 1964; 三隅, 1978; 倉本, 1979)を参考に, 「人の面倒をよく見る」など15項目をキャンプ集団における児童のリーダーシップとして抽出している。堺・藤原・伊賀上・山本(2007)や堺・藤原・伊賀上(2010)は, 児童がリーダーシップを発揮する場面として「学級会の場面」, 「遊びの場面」を抽出し, 各場面のリーダーシップ行動をPM理論におけるP機能とM機能に分類して抽出している。同様に田中(2018)もPM機能をもとに項目を設定し, ボーイスカウト活動に参加した児童の評定に活用している。また, 上村・鹿嶋(2017)は, 学校場面の「そうじの時間」を取り上げ, 主体性, 仲を取り持つこと, 主張性の3因子を抽出している。以上より, 小学生のリーダーシップについては, 学級会の場面, 遊びの場面, そうじの場面におけるリーダーシップ行動が具体的に示されており, その項目内容は, PM機能を想定した行動論的アプローチによる捉え方が主となっていた。

しかし, 近年の学校現場では, 文部科学省(2022)が主権者意識につながる活動の重要性を唱えており, 学級・ホームルーム活動において, 自分たちでよりよい生活や人間関係を築くこと, そしてさらにその経験を生かして, 児童会等で学校生活の充実と向上のための課題を児童が自ら見だし解決方法について話し合い, 協力して実践し, 児童が自らの発意・発想を生かして活動計画を作成することの重要性を示している。したがって, 現代の教員の捉える児童のリーダーシップは, これらの意識が反映されたものであることも予測され, 行動論的アプローチのみで捉えられるものではないのではないかと考えられる。

以上から本研究では, 小学校教員の児童のリーダーシップの捉え方について, 具体的には学級や学校で児童にどのようなリーダーシップを発揮してほしいと考えているのかについて検討することを目的とする。なお, 研究1では全国の小学校教員を対象に自由記述にて回答を求め, 探索的に検討することとした。さらに, 研究2では面接にて回答を求め, 研究1の結果に照らして小学校教員の意識を検討することとした。

研究 1

【目的】

学級や学校において、小学校教員が児童にどのようなリーダーシップを発揮してほしいと考えているかについて、自由記述調査から検討することを目的とする

【方法】

調査対象 20～60代の小学校教員200名（男性121名、女性79名）を対象とした（平均年齢46.28歳、SD＝11.32）。40都道府県の小学校教員より回答を得た。

調査内容 調査対象の教員に、属性（性別、年齢）、役職、通常学級の担任経験年数、担任する（していた）学級でどのようなリーダーを設定して児童に経験させていたかについて、選択による回答を求めた。リーダーの種類については、「1. 学級役員（委員長、副委員長など）の学級のリーダー」、「2. 班役員（班長、副班長など）の班のリーダー」、「3. 当番活動（係、委員会、地域活動など）のリーダー」、「4. 学校行事（運動会、スポーツ大会、球技大会、文化祭、音楽祭、合唱祭、学芸会など）のリーダー」、「5. 学年行事（会長、副会長、書記、会計、庶務など）の学年全体のリーダー」、「6. 学級行事（お楽しみ会、レクリエーションイベントなど）のリーダー」、「7. 異学年で行う活動（縦割活動など）のリーダー」、「8. その他」を想定し、回答（複数回答可）を求めた。さらに「リーダーの児童にどのようなリーダーシップを発揮してもらいたいか」について、自由記述方式による回答を求めた。なお、小学校では、学級、班、係、委員会、行事など様々な集団活動においてリーダーを選出し、多様な活動の運営を経験させることから、場面に限定せずに回答をしてもらうことにした。

調査手続き 調査協力者の募集は、アイブリッジ株式会社が運営する日本のネットリサーチサービス「Freeasy」で行った。調査協力者に、回答フォームを配布し、同意を得て実施した。本調査は無記名で、回答は自由意志で行うものであり、強制ではないこと、協力しない場合も一切不利益が生じることはないこと、途中で回答をやめることも可能であること、回答後のフォームを第三者が見ることはないこと、個人のプライバシーは保護されることを冒頭に明記した。なお、著者の所属機関において、研究倫理について内容が確認され、承認を得た上で実施された。

【結果】

1. 対象者の属性

対象は、通常学級の担任経験のない者を除いた20～60代の小学校教員190名（男性118名、女性72名）とした。有効回答は95.00%である（平均年齢46.23歳、SD＝11.21）。対象者の役職については、教諭が64.74%と最も多かった（Table 1）。通常学級の担任経験年数は、6～10年および11～15年がそれぞれ18.95%と出現率が高かった（Table 2）。担任する（担任していた）学級でどのようなリーダーを設定して児童に経験させていたかについては、どのカテゴリも60%以上と多いが、特に班のリーダーが90.00%と最も出現率が高く、次に当番活動のリーダーが85.26%と出現率が高かった（Table 3）。

Table 1 対象者の役職

	人数 (人)	出現率 (%)
教諭	123	64.74
主任教諭	32	16.84
指導教諭	3	1.58
主幹教諭	10	5.26
副校長・教頭	10	5.26
校長	12	6.32
計	190	100.00

Table 2 通常学級の担任経験年数

	人数 (人)	出現率 (%)
1 年	2	1.05
2 ～ 5 年	16	8.42
6 ～ 10 年	36	18.95
11 ～ 15 年	36	18.95
16 ～ 20 年	32	16.84
21 ～ 25 年	30	15.79
26 ～ 30 年	16	8.42
31 年以上	22	11.58
	190	100.00

Table 3 担任する (担任していた) 学級で児童に経験させていたリーダーの種類

	人数 (人)	出現率 (%)
1. 学級役員 (委員長, 副委員長など) の学級のリーダー	150	78.95
2. 班役員 (班長, 副班長など) の班のリーダー	171	90.00
3. 当番活動 (係, 委員会, 地域活動など) のリーダー	162	85.26
4. 学校行事 (運動会, スポーツ大会, 球技大会, 文化祭, 音楽祭, 合唱祭, 学芸会など) のリーダー	153	80.53
5. 学年行事 (卒業関連イベントなど) のリーダー	135	71.05
6. 学級行事 (お楽しみ会, レクリエーションイベントなど) のリーダー	143	75.26
7. 異学年で行う活動 (縦割活動など) のリーダー	119	62.63
8. その他	0	0.00

2. 児童のリーダーシップについて

「リーダーの児童にどのようなリーダーシップを発揮してもらいたいのか」についての自由記述方式による回答を, KJ法を参考に整理, 分類を行った (川喜多, 1967)。自由記述の中に2つ以上の観点が記述されていた場合には, 分割して検討することとした。分類は, 意味内容が同じものや類似するものをまとめ, 小カテゴリを生成した。さらに小カテゴリ間の関係性を検討し, その内容によって中カテゴリとして整理した。以下, 中カテゴリを『』, 小カテゴリを[]で記す。結果をTable 4に示す。

まず[意見, 人をまとめる], [集団, 人, 下級生を引っ張る], [率先して行動する], [注意や指示をする], [責任を持つ・やり遂げる], [やる気を出させる], [活動を進める], [グループの中心になる], [話し合いの司会をする], [模範になる]の10つの小カテゴリが抽出され, さらにこれを中カテゴリ『行動・態度』として分類した。次に[全体, 人, 下級生に配慮する], [意見, 話を聞く], [協力, 協同する], [調整する], [公平に接する]の5つの小カテゴリが抽出され, 中カテゴリ『対人関係』として分類した。さらに[自主性や主体性を発揮する], [自分の意見を述べる], [自分, みんな, 誰もが楽しむ], [前向きに取り組む]の4つの小カテゴリが抽出され, 中カテゴリ『自己・意識』として分類した。また[企画する], [見通しを持つ], [準備をする], [目標を明確にする]の4つの小カテゴリが抽出され, 中カテゴリ『計画』として分類した。さらに, 出現数

Table 4 小学校教員が児童に発揮してもらいたいリーダーシップ

中カテゴリ	小カテゴリ	項目内容	面接内容
行動・態度 (153)	意見、人をまとめる (55)	<ul style="list-style-type: none"> ・意見をまとめる ・合意形成してまとめる ・班やクラス、全体をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・その場での最適解を考える努力をする、合意形成をするリーダーやファシリテーター【A】 ・話を進めたり、仕切ったりするファシリテーター【F】 ・ダイグイ引張っていくよりは、合意形成していく時の調整役のようなまとめ役【M】 ・引張っていくというよりは、まとめる。みんなの言い分を聞く【Q】 ・みんなの意見を集約しながら、最適解にまとめてくれる【S】 ・全体をある方向に持っていくために、自分はどういう行動をとればいいのか、みんなで話し合いながら合意形成する【X】
	集団、人、下級生を引く張る (26)	<ul style="list-style-type: none"> ・集団を引く張る ・みんなを引く張る ・下級生を引く張る 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生は、学年はもちろん、学校を引っ張ってほしい【F】 ・先頭に立って引張っていく【G】
	率先して行動する (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・率先して物事に取り組む ・進んで行動する ・率先して仲間に働きかける 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなのことを考えて提案をしたり、みんなに声かけを行ったり、率先して動く【J】
	注意や指示をする (11)	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指示を伝達する ・逸脱するような児童や、逸脱している児童に注意する ・適切な指示をする 	
	責任を持つ・やり遂げる (11)	<ul style="list-style-type: none"> ・自覚と責任を持つ ・自分の役割を最後までやり遂げる ・最後まで投げ出さない 	<ul style="list-style-type: none"> ・責任感。自分がやらなきゃ誰がやる、というような気持ち【P】
	やる気を出させる (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・士気を上げる ・みんなを勇気づける ・チーム全体を鼓舞する 	
	活動を進める (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な仕事を理解して進める ・よいものを考え進めていく ・話し合いを進めて活動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・その場の活動を円滑に進める【K】

Table 4 小学校教員が児童に発揮してもらいたいリーダーシップ (続き)

中カテゴリー	小カテゴリー	項目内容	面接内容
行動・ 態度 (153)	グループの中心になる (7)	<ul style="list-style-type: none">・中心になって活動する・実践するための中心的な役割になる・中心になって会を進める	
	話し合いの司会をする (7)	<ul style="list-style-type: none">・話し合いの進行をする・司会をする・意見をまとめるなどの司会をする	
	模範になる (4)	<ul style="list-style-type: none">・他の児童の模範になる・みんなの模範になる言動をする・お手本となる行動をする	<ul style="list-style-type: none">・基本的な生活習慣が身についている, 学校の決まりを守る 【H】・お手本となる姿, 学校の顔となるような姿を意識してほしい。他の学年よりもかっこいい姿を意識して取り組んでほしい 【O】

Table 4 小学校教員が児童に発揮してもらいたいリーダーシップ (続き)

中カテゴリー	小カテゴリー	項目内容	面接内容
対人関係 (83)	全体、人、下級生に配慮する (46)	<ul style="list-style-type: none"> ・周りをサポートする ・下級生に気を配る ・みんなを思いやる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことだけを考えて、自分が目立つことをやりたい、目立ちたいからやりたいではなくクラス全体の利益を考える、全体を俯瞰して見られる、自分の考えを相手を傷つけないで上手に言える [A] ・つらい思いをする子がいらないように動く [C] ・みんなのことをどれだけ考えたり、見たりできるか。みんなの気持ちに敏感であってほしい [D] ・友達に対して優しく接する、困っている時にきっと助けに行く [H] ・声かけができる親切な子。声かけがいい意味のお節介。困っている子がいたら、さっと声をかける [I] ・周りが集中できているかとか、自分に注目しているかとか、自分の話をした時に周りがどういう反応しているか、について見ることができ [K] ・みんなに思いや考えを話せる、下級生にもわかりやすく言える、伝えられる [R] ・人を思いやれること [T] ・班の中で一人の子がいらないように、一人でいたら声をかけるとか、遅れている子にも声をかけて連れてくる [U] ・自分がやりたいことで相手のニーズに合わせて何かをするってことを考える [W]
	意見、話を聞く (18)	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの意見を聞く ・みんなの思いや願いを汲む ・一人ひとりの意見を大事にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの意見を聞く [A] ・みんなの声を聞くことができる [V]
	協力、協同する (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力、協同する ・協力し合う雰囲気を作る ・協力を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで活動して、うまくやれているか、折り合いをつつけられているか [A] ・「一緒にこれしない？」など、みんなに声をかける [C] ・大人がいない場所でも、正しい方向に仲間たちと協力して活動ができる [N] ・リーダーが全部やるのではなく、助けてもらう [R] ・一人で決めるのではなくて、相談して決める、困った時には援助を求める [V]
	調整する (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・他のメンバーとの調整役をする ・周りの様子を見て調整する 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を見て動いて調整できる [A]
	公平に接する (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・公平で公正な言動をする ・誰に対しても公平に接する 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが公平に意見を言える [A]

Table 4 小学校教員が児童に発揮してもらいたいリーダーシップ (続き)

中カテゴリ	小カテゴリ	項目内容	面接内容
自己・意識 (39)	自主性や主体性を発揮する (17)	<ul style="list-style-type: none">・自ら学び、考え、主体的に物事に取り組む・自分たちで解決しようとする・自分たちで最善の方法を考えて行動する	<ul style="list-style-type: none">・自分なりに自分が主体となって行動できる [B]・自分たちの思いとか願いをその活動に組み込んでいく [G]・子どもたちの中で自分たちで課題を話す [K]・自分の所属する組織について自分自身で考える。学級委員長だったら学級の課題に対して自主的に、自分で考えて動ける [L]・自分にできることをまず発揮する [Y]
	自分の意見を述べる (14)	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えを提案する・様々な意見の折り合いをつける・意見を出し合う	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えを持っているか [A]・こういう学校にしたいとか、自分たちが考えたことで活動していったり取り組んだりしていくことで、クラスや学年や学校を変えられるんだという気持ちを持ってほしい [G]・自分の考えや気持ちなど、自分はこのように感じたというものを話す。振り返りの場面で、成果やよかったことを話す。次はどういうことをしたいかを話すとか、リーダーからどう見えてどう思ってたかを話す [K]・みんなの前で必ず感想を話して挨拶させている。自分で考えたことを、みんなの前で一言話してから挨拶をするなど。めあてを発表する時も、自分の考えをみんなの前で話す。先生に言われなくても、自分たちで考えて行動する [P]・みんなの前で自分の思いを話せる [V]
	自分、みんな、誰もが楽しむ (4)	<ul style="list-style-type: none">・自分自身が楽しむ・みんなが楽しく過ごせるような態度をとる・誰もが楽しめることを考える	<ul style="list-style-type: none">・楽しい時もちよっと周りに気を配って、みんなが楽しいかどうかを考えられる [C]・誰かのために何かをやるとというのは楽しいし、嬉しいという感情を持っている [W]
	前向きに取り組む (4)	<ul style="list-style-type: none">・やってよかったと思えるように前向きに取り組む・前向きな姿勢で様々な活動に取り組む・活動を活発にしようとする意欲を持つ	<ul style="list-style-type: none">・やってみる、うまくいかない、次やってみる、うまくいかない、またやってみるというように、失敗しても挑戦し続ける。自分をもっと全体に向けてよりよい状態にしたいという思いがある。行動した後に、教員のフィードバックをもらって、さらによりよい状態に成長していきたいと思っている [B]

Table 4 小学校教員が児童に発揮してもらいたいリーダーシップ (続き)

中カテゴリ	小カテゴリ	項目内容	面接内容
計画 (25)	企画する (16)	<ul style="list-style-type: none"> 相手のことを考えて企画, 行動する 企画, 運営をする 計画通りに進める 	<ul style="list-style-type: none"> 先生にオーケーをもらうためにはいつまでに何をすればいいか, ということを自分たちで話し合って聞きに行くというような計画をたてる [E]
	見通しを持つ (4)	<ul style="list-style-type: none"> 活動全体を見る 活動の見通しを持つ 目的と見通しを持つ 	<ul style="list-style-type: none"> 先読みして動く, その見通しを持つこと。例えば, 今いつまでにこれをやらなければならぬという状況を逆算して考える [E]
	準備をする (3)	<ul style="list-style-type: none"> 会の準備や進行をする 必要な準備を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 下級生が来るから, その前に何を準備しなければならないのか, どういうことをやっておかないといけないのか, など考える [R]
	目標を明確にする (2)	<ul style="list-style-type: none"> 学級の目標に向かって意識づけをする 目的にかなう目標を明確にする 	
	試行錯誤する (1)	<ul style="list-style-type: none"> 試行錯誤する 	
	リーダーシップを使い分ける (1)	<ul style="list-style-type: none"> リーダーシップを使い分ける 	
	メンバーの役割を提案する (1)	<ul style="list-style-type: none"> メンバーの役割を提案する 	
その他 (12)	臨機応変に対応する (1)	<ul style="list-style-type: none"> 臨機応変に対応する 	
	活躍する (1)	<ul style="list-style-type: none"> 活躍する 	
	バランスをとる (1)	<ul style="list-style-type: none"> バランスをとる 	
	教師の意図を汲む (1)	<ul style="list-style-type: none"> 教師の意図を汲む 	
	コミュニケーションをとる (1)	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションをとる 	
	人から慕われる (1)	<ul style="list-style-type: none"> 人から慕われる 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の行動を見て, 周りの子どもたちが信頼を置いている [H] 周りの子どもから信頼されるような人となりを備えてほしい。そういう子でないとみんなもついてこない [N]

Table 4 小学校教員が児童に発揮してもらいたいリーダーシップ (続き)

中カテゴリ	小カテゴリ	項目内容	面接内容
その他 (12)	一体感を作る (1)	・ 一体感を作る	
	対抗意識 (1)	・ 対抗意識を持つ	
	〔多様なリーダーシップ〕		・ いろんなリーダーのやり方がある。絶対的なリーダーの子の真似をするのではなく、自分らしいリーダー像を作ればいい [H]

※ 1 () 内の数字は出現数

※ 2 [] 内は研究 2 で新たに出現した回答につけたカテゴリ名

が1であった[試行錯誤する],[リーダーシップを使い分ける],[メンバーの役割を提案する],[臨機応変に対応する],[活躍する],[バランスをとる],[教師の意図を汲む],[コミュニケーションをとる],[人から慕われる],[一体感を作る],[対抗意識]についても、リーダーシップの多様性を考慮して、『その他』として中カテゴリに分類した。

【考察】

1. リーダーの設定

担任する(担任していた)学級で児童に経験させていたリーダーの種類を見ると、「班役員(班長・副班長など)の班のリーダー」が90.00%と最も出現率が高かった。また学級内での集団活動での役割としては、「当番活動(係,委員会,地域活動など)のリーダー」が85.26%、「学級役員(委員長,副委員長など)の学級のリーダー」が78.95%、「学級行事(お楽しみ会,レクリエーションイベントなど)のリーダー」が75.26%であった。これらの活動において多くの教員が児童のリーダーシップを発揮する機会としていることが明らかになった。また、「学校行事(運動会,スポーツ大会,球技大会,文化祭,音楽祭,合唱祭,学芸会など)のリーダー」が80.53%、「学年行事(卒業関連イベントなど)のリーダー」が71.05%、「異学年で行う活動(縦割活動など)のリーダー」が62.63%と、活動の規模が学級から学年や学校単位へと大きくなった場合にも、児童のリーダーを設定していることが明らかになった。よって、文部科学省(2022)が指摘する児童会活動,学級活動,係活動,当番活動において、多くの教員が児童のリーダーを設定して活動させていることが明らかになった。ただし、どのカテゴリも出現率が100%ではないことから、学級や学校でどのような活動を行うか、またその中でリーダーを設定するか否かは、教員もしくは学校の方針によって異なっていることが窺えた。

2. 児童のリーダーシップ

自由記述についてKJ法によりまとめた結果、『行動・態度』、『対人関係』、『自己・意識』、『計画』、『その他』という5つの中カテゴリに分類された。

『行動・態度』に関しては、小カテゴリとして[意見,人をまとめる]の出現率が最も高く、次いで[集団,人,下級生を引っ張る],[率先して行動する],[注意や指示をする],[責任を持つ・やり遂げる]が高かった。リーダーの児童に対して、メンバーの前に立ち、時には注意や指示などをしながら集団を統率するような言動をすることを期待していることが明らかになった。また,[やる気を出させる],[活動を進める],[グループの中心になる],[話し合いの司会をする],[模範になる]については、いわゆるリーダーとしてメンバーを鼓舞したり、動機づけを行ったりしながら、中心になって話し合い活動をするような姿を期待していることが明らかになった。

次に、『対人関係』に関しては、小カテゴリとして[全体,人,下級生に配慮する]が最も出現率が高かった。次いで[意見,話を聞く],[協力,協同する],[調整する],[公平に接する]が抽出された。リーダーシップを発揮する際には、自分本位に行動するのではなく、周囲に気を配り、優しさや思いやりを持って、みんなに公平に接すること、一人で何でもやろうとするのではなく、仲間と協力したり、協同したりする姿勢を大切にしてほしいという期待があることが示された。

そして、『自己・意識』に関しては、小カテゴリとして[自主性や主体性を発揮する]と[自分の意見を述べる]の出現率が高く、次いで[自分、みんな、誰もが楽しむ]、[前向きに取り組む]という姿勢が抽出された。教員に言われなくても自分たちで活動を進めていくこと、活動を進める際にはリーダーの児童自身の思いや願いを織り込み、自分たちで考え、課題を解決しようとする主体性を求めていることが示された。

さらに、『計画』に関しては、小カテゴリとして[企画する]が最も出現率が高く、次いで[見通しを持つ]、[準備をする]、[目標を明確にする]が抽出された。活動には目的や目標があり、それに向かう形で企画、準備し、見通しを持って進めていくことを期待していることが明らかになった。

また、『その他』については、出現数は少ないが様々な意見が得られ、教員一人ひとりが児童のリーダーシップとして捉える内容が多様であることが示された。

これらを概観すると、『行動・態度』、『計画』はP機能、『対人関係』はM機能に近い内容であり、これまでの研究の理論的背景として用いられてきたPM機能のような行動論的アプローチに基づいた内容も抽出されていたことが明らかになった。『自己・意識』、『その他』に関しては、PM機能では分類できない項目内容も見られた。

以上より、小学校教員が児童にどのようなリーダーシップを発揮してほしいと考えているのが示された。

研究2

【目的】

研究1と同様に、学級や学校において、小学校教員が児童にどのようなリーダーシップを発揮してほしいと考えているのかについて、面接調査から検討することを目的とする。

【方法】

調査対象 20～60代の小学校教員および元小学校教員25名（男性11名、女性14名）を対象とした。15都道府県の小学校教員および元小学校教員より回答を得た。

調査内容 研究1と同様に、調査対象の教員に担任する学級でどのようなリーダーを設定して児童に経験させていたかについて選択による回答を求めた。また、「児童にどのようなリーダーシップを発揮してもらいたいですか」、「どのようなリーダーシップを期待しますか」についての回答を求めた。

調査手続き 調査協力者に質問紙調査およびインタビュー面接を行うことの同意を得て実施した。調査は、回答は自由意志で行うものであり、強制ではないこと、協力しない場合も一切不利益が生じることはないこと、途中で面接をやめることも可能であること、面接後の内容を第三者が見ることはないこと、個人のプライバシーは保護されることを冒頭に明記した。なお、著者の所属機関において、研究倫理について内容が確認され、承認を得た上で実施された。

【結果】

1. 対象者の属性

対象者の役職（元教員については現職時の役職）については、教諭が 68.00%と最も多かった (Table 5)。通常学級の担任経験年数は、11～15 年が 28.00%と出現率が高かった (Table 6)。担任する（担任していた）学級でどのようなリーダーを設定して児童に経験させていたかについては、どのカテゴリも 60%以上と多いが、特に学校行事のリーダーが 100.00%と高く、次に班役員と当番活動のリーダーが 96.00%と出現率が高かった (Table 7)。

Table 5 対象者の役職（元教員については現職時の役職）

	人数（人）	出現率（%）
教諭	17	68.00
主任教諭	0	0.00
指導教諭	0	0.00
主幹教諭	5	20.00
副校長・教頭	1	4.00
校長	2	8.00
計	25	100.00

Table 6 通常学級の担任経験年数

	人数（人）	出現率（%）
1 年	0	0.00
2～5 年	1	4.00
6～10 年	3	12.00
11～15 年	7	28.00
16～20 年	4	16.00
21～25 年	6	24.00
26～30 年	3	12.00
31 年以上	1	4.00
	25	100.00

Table 7 担任する（担任していた）学級で児童に経験させていたリーダーの種類

	人数（人）	出現率（%）
1. 学級役員（委員長、副委員長など）の学級のリーダー	21	84.00
2. 班役員（班長、副班長など）の班のリーダー	24	96.00
3. 当番活動（係、委員会、地域活動など）のリーダー	24	96.00
4. 学校行事（運動会、スポーツ大会、球技大会、文化祭、音楽祭、合唱祭、学芸会など）のリーダー	25	100.00
5. 学年行事（卒業関連イベントなど）のリーダー	18	72.00
6. 学級行事（お楽しみ会、レクリエーションイベントなど）のリーダー	21	84.00
7. 異学年で行う活動（縦割活動など）のリーダー	16	64.00
8. その他	0	0.00

2. 児童のリーダーシップについて

調査協力者に「児童にどのようなリーダーシップを発揮してもらいたいのか。どのようなリーダーシップを期待するか」についてのインタビュー方式による回答を、KJ 法を参考に整理、分類を行った（川喜多，1967）。回答の中に 2 つ以上の観点が記述されていた場合には、分割して検討することとした。分類は、意味内容が同じものや類似するものをまとめた。回答には被調査者 ID として【 】内に A～Y の記号を記した。また、回答の出現率がわかりやすいように、研究 1 で抽出したカテゴリにあてはめて分類した。なお、被調査者の回答は、要点のみを記すこととした。結果は Table 4 にあわせて記載

した。

【考察】

1. リーダーの設定

担任する（担任していた）学級で児童に経験させていたリーダーの種類を見ると、「学校行事（運動会、スポーツ大会、球技大会、文化祭、音楽祭、合唱祭、学芸会など）のリーダー」が100%と最も出現率が高かった。次に、「班役員（班長、副班長など）の班のリーダー」および「当番活動（係、委員会、地域活動など）のリーダー」がともに96.00%、次いで「学級役員（委員長、副委員長など）の学級のリーダー」および「学級行事（お楽しみ会、レクリエーションイベントなど）のリーダー」がともに84.00%であった。研究1と比較するとリーダーの設置率が高く、調査協力者が学校行事や学級活動などの特別活動を活用してリーダーおよびリーダーシップを育成していることが示唆された。

2. 児童のリーダーシップ

結果、『行動・態度』の中の小カテゴリに関しては、[意見, 人をまとめる]の出現率が最も高く、その内容からは、「みんなの意見を聞き、合意形成をしていくファシリテーター」というリーダー像を持っている傾向があった。[集団, 人, 下級生を引っ張る], [率先して行動する], [責任を持つ・やり遂げる], [活動を進める], [模範になる]などの回答からはリーダーらしいふるまいを期待している様相が見られる。ただし、[注意や指示をする], [やる気を出させる], [グループの中心になる], [話し合いの司会をする]の回答がなかったことから、強いリーダーシップを発揮して、集団を統率したり、士気を高めたりすること、いつもリーダーが中心になることはそれほど重要視していない様相も見られた。

『対人関係』の中の小カテゴリに関しては、[全体, 人, 下級生に配慮する]の出現率が最も高かった。内容は、困っている子やつらい子がいないように配慮するなどの個別対応、みんなのことを考えて話したり、全体の利益を考えて行動したりするなどの集団対応が含まれていた。また、[意見, 話を聞く], [協力, 協同する], [調整する], [公平に接する]にも、集団のメンバー全員を意識することを求めている様相が見られた。

『自己・意識』の中の小カテゴリに関しては、[自分の意見を述べる]の出現率が最も高く、リーダーが自分の考え、思い、希望などを全体に話すことを重視していた。[自主性や主体性を発揮する], [自分, みんな, 誰もが楽しむ], [前向きに取り組む]などからも、児童が主体となり、楽しみながら意欲を持って取り組むことを期待している様相が見られた。

『計画』の中の小カテゴリに関しては、突出して出現率が高いものはなかったが、[企画する], [見通しを持つ], [準備する]という、活動を進めていく上での具体的な取り組みに関する事柄を期待している様相が見られた。

『その他』の中の小カテゴリに関しては、[人から慕われる]への言及があり、児童の性格特性や行動特性に注目しているものもあった。また研究1では抽出されなかった[多様なリーダーシップ]については、色々なリーダーシップのあり方を示し、自分らしさの発現を期待する意見もあった。

以上より、『行動・態度』より[意見, 人をまとめる], また『対人関係』より[全体, 人, 下級生に配慮する], そして『自己・意識』より[自分の意見を述べる]の3つの視点が重要視されていることが明らかになった。

文部科学省(2022)では、主権者意識につながる活動の重要性を唱えており、学級や学校生活の充実と向上のための課題を児童が自ら見だし解決方法について話し合うこと、協力して実践すること、児童が自らの発意・発想を生かして活動計画を作成することの必要性が提起されていた。これを実現するためにも、小学校教員が上記3点について重要だと捉えていることが推察された。

【まとめと総合的考察】

本邦において、児童のリーダーシップについての研究は著しく少なく、その中でもPM理論に代表される行動理論的アプローチにより捉えられる傾向にあった。本研究では、近年の社会において成人のリーダーシップの捉え方が多様に変化していることを受けて、現代の小学校教員が児童のリーダーシップをどのように捉えているかについて検討した。

教員に対する自由記述および面接による調査より、「リーダーの児童に発揮してほしいリーダーシップ」について検討した結果、大きなカテゴリとして『行動・態度』、『対人関係』、『自己・意識』、『計画』、『その他』が抽出された。『行動・態度』については、研究1ではリーダーの児童に対して、メンバーの前に立ち、時には注意や指示などをしながら集団を統制するような言動をすることや、いわゆるリーダーとしてメンバーや集団を鼓舞したり、動機づけを行ったりしながら、中心になって話し合い活動をするような姿を期待していることからPM機能に近似している傾向も明らかになった。ただし、研究2の『行動・態度』では、児童のリーダーシップとして、様々な意見を統合し、合意形成をしていくファシリテーターというP機能とM機能を織り込んだリーダーシップや、周囲に配慮しながら丁寧に活動を進めていくファシリテーターをイメージしていることが明らかになった。

先行研究では、測定尺度として示されている児童のリーダーシップの項目はどれも同等の価値として位置付けられていたが、本研究では小学校教員が児童のリーダーシップとして特に大事にしたい内容が『行動・態度』では[意見, 人をまとめる], 『対人関係』では[全体, 人, 下級生に配慮する], 『自己・意識』では[自分の意見を述べる]であることが明らかになった。これにより、児童のリーダーシップの育成を目指した際に重視する内容が明確になり、今後の小学校教員による児童のリーダーやリーダーシップの指導や支援の参考にすることが可能となるため、意義があると考えられた。

リーダーおよびリーダーシップの捉え方は人により異なる(Yukl, 2013)と指摘されるように、教員一人ひとりの、子どものリーダーおよびリーダーシップの捉え方や、育成の仕方に対する考え方や方法論は異なることが本研究からも予測された。よって、教員のリーダーシップ観の違いにより、リーダーの児童、メンバーとなる学級の児童全員に対して何を求め、指導や支援をするのかが異なることが予測される。この点について詳細に検討することを今後の課題としたい。

【引用文献】

- Bales, R. F. (1950). Interaction process analysis; a method for the study of small groups. Addison-Wesley.
- Carter, L.F., Haythorn, W., Shriver, B. , & Lanzetta, J. (1951). The behavior of leaders and other group members. *The Journal of Social Psychology*, 46(4) 589-595.
- Clifford, C., & Cohn, T. S. (1964). The relationship between leadership and personality attributes perceived by followers. *The Journal of Social Psychology*, 64(1), 57-64.
- 淵上克義 (2009). リーダーシップ研究の動向と課題 組織科学 43(2), 4-15.
- 石黒武人 (2012). 多文化組織の日本人リーダー像－ライフストーリー・インタビューからのアプローチ 春風社
- 上村啓太・鹿嶋真弓 (2017). 小学校高学年におけるリーダーシップ行動の資質要因の検討高知大学教育実践研究, 31, 39-45.
- 川喜多二郎 (1967). 発想法 創造性開発のために 中公新書
- Kirscht, J. P., Lodahl, T. M., & Haire, M. (1959). Some factors in the selection of leaders by members of small groups. *The Journal of Abnormal and Social Psychology*, 58(3), 406- 408.
- Komives, S. R., Lucas, N., & McMahon, T. R. (2009). Exploring leadership: For college students who want to make a difference. John Wiley & Sons. (日向野幹也監訳 (2017). リーダーシップの探求: 変化をもたらす理論と実践 早稲田大学出版部)
- 倉本満枝 (1979). 小学校 5, 6 年生のキャンプにおけるリーダーシップの研究 野外運動研究, 3 (1), 33-44.
- 倉本満枝 (1981). キャンプ集団における児童のリーダーシップ行動の変容 実験社会心理学研究, 20(2), 127-136.
- 松山一紀・長谷俊平 (2022). フォロワーシップ教育の研究動向と事例紹介 評論・社会科学, 141, 97-114.
- 三隅二不二 (1978). リーダーシップ行動の科学 有斐閣
- 文部科学省 (2022). 生徒指導提要
- Polansky, N., Lippitt, R., & Redl, F. (1950). An investigation of behavioral contagion in groups. *Human Relations*, 3(4), 319-348.
- 堺賢治 (2000). 子どもの遊び集団とリーダーシップに関する研究 愛媛大学教育学部紀要, 教育科学, 46 (2), 127-134.
- 堺賢治・藤原誠・伊賀上哲旭 (2010). 子どもの学校生活場面のリーダーシップに関する研究ー遊びとスポーツクラブ, 体育との関係ー 愛媛大学教育学部紀要, 57, 161-167.
- 堺賢治・藤原誠・伊賀上哲旭 (2011). 小学校教諭からみた子どものリーダーシップに関する研究 愛媛大学教育学部紀要, 58, 145-149.
- 堺賢治・藤原誠・伊賀上哲旭・山本孔一 (2007). 子どもの遊びとリーダーシップに関する研究ースポーツクラブと学校生活の関係を中心にしてー 愛媛大学教育学部紀要, 54 (1), 119-127.
- 田中優 (2018). ボーイスカウトの夏季キャンプ参加が生きる力, リーダーシップ, お

- よび、自尊心に与える影響 人間生活文化研究, 28, 428-434.
- 弓削洋子・森部真穂 (2015). 学級集団構造を体現する学級リーダーの研究 愛知教育
大学研究報告. 教育科学編, 64, 75-84.
- Yukl, G. (2013). Leadership in organizations (8th ed.) . Prentice - Hall, Englewood
Cliffs, NJ.

Received: November 27, 2024

Accepted date: December 2, 2024